

# 垂水市における 地域包括ケアシステム構築の取り組み

市民一人ひとりが生きがいや夢を持ち  
住み慣れた地域で安心して暮らせる垂水(10年後)をめざして

鹿児島県垂水市役所 保健福祉課  
保健師 堀之内 貢子



# 本日の内容



- 取組みの背景、課題整理
- 取組みの内容
- 庁内の組織再編  
(保健師の人材育成含)

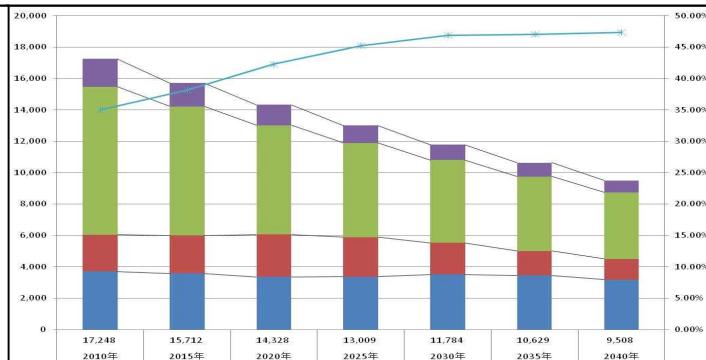
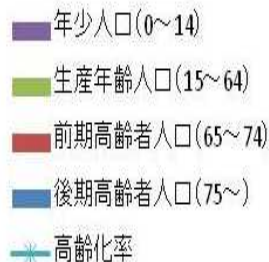
# 垂水市の概況



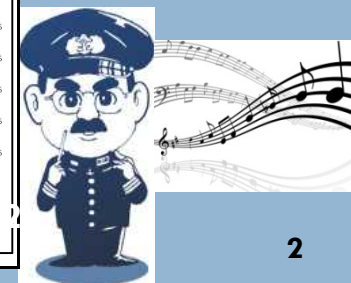
## 市の状況 (H26.2現在)

人口	16,626人
世帯数	7,968世帯
高齢者数(率)	6,072人 (36.52%)
後期高齢者数(率)	3,691人 (22.20%)
要介護認定者数(率) ※1号被保険者	1,161人 (19.12%)
認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上 ≥65歳	804人 (13.24%) 【国の推計9.5%(H22)】
単独高齢者世帯数(率)	1,945世帯 (24.41%)
介護保険料基準額 ※第5期	4,180円

### 今後の人口推計



※国立社会保障人口問題研究所資料



# 地域包括ケアシステム構築に係るこれまでの取組（鹿児島県垂水市）

H25.8.8 垂水市保健福祉課作成

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
<b>1 市計画実施時期</b>									
<b>2 県関与事業</b>		鹿児島県地域ケア体制整備モデル事業				鹿児島県地域支え合い体制づくり事業	地域振興推進事業 (大隅地域振興局)	鹿児島県暮らし安心地域支え合い推進事業 鹿児島県高齢者元気度アップ・ポイント事業	
<b>3 在宅医療の推進</b>									
<b>4 庁内体制</b>			 						
<b>5 多職種連携</b>									
<b>6 市民への啓発活動</b>									
<b>7 地域包括ケア関連事業</b>									
<b>8 行政内組織</b>									



# 取組みの背景・課題整理

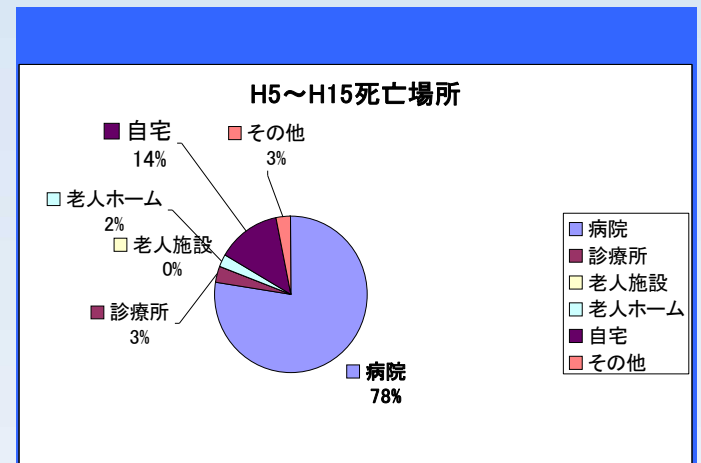
(※鹿児島県地域包括ケアモデル事業の取り組み)

## 1、地域の課題

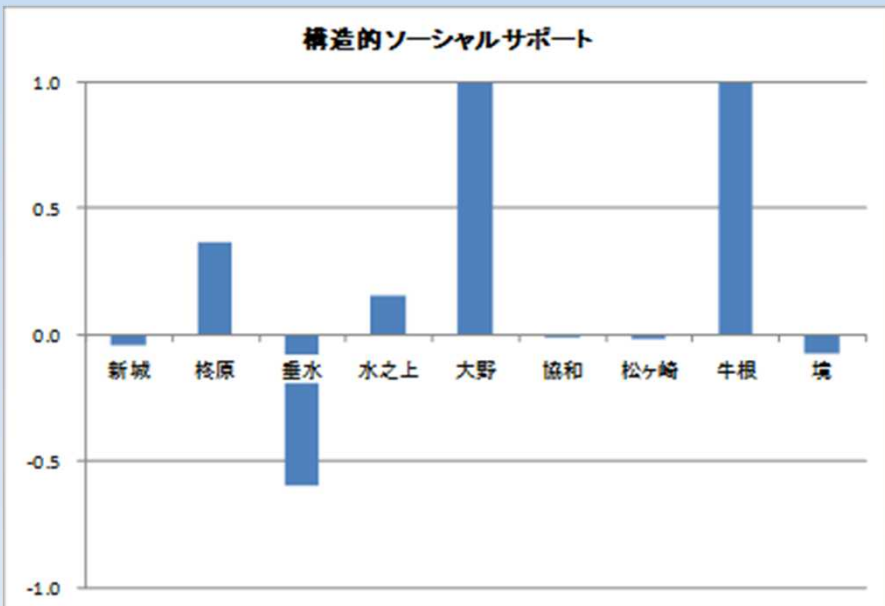
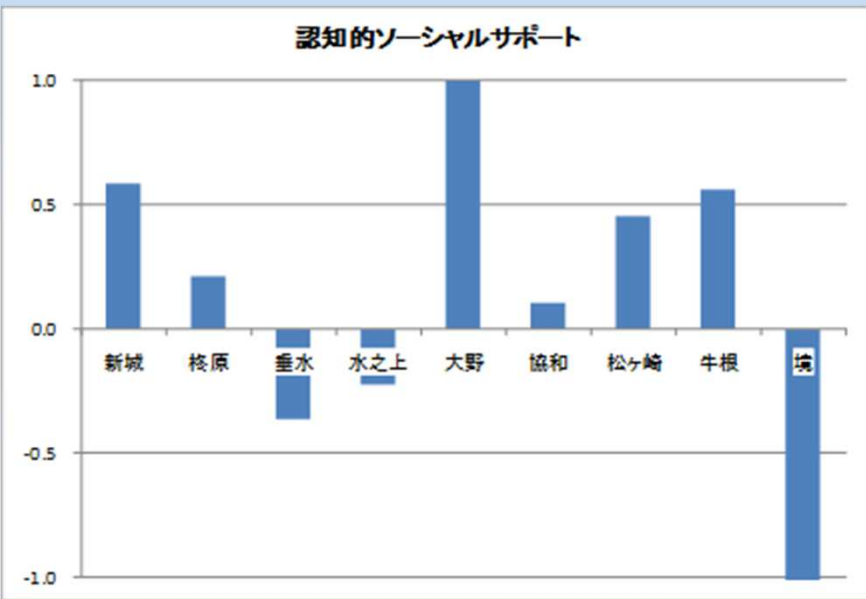
- ◆ 少子高齢化（合計特殊出生率1.58）
- ◆ 高齢者単身世帯の増加
- ◆ 過疎化、限界集落がみられる  
（地域コミュニティの低下）
- ◆ 療養病床の転換（スタッフ不足）
- ◆ 住民の思い  
（意識調査によると7割が最後まで家で暮らし続けたい）
- ◆ 死亡場所の変化
- ◆ 医師の高齢化 etc

## 2、まわりの変化

医療・福祉観  
人生観・死生観  
家族像  
高齢者像  
価値観



# 健康たるみず21策定時の意識調査結果より



※認知的ソーシャルサポートとは、信頼、助け合い、愛着を合計したもの

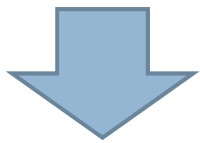
※構造的ソーシャルサポートとは、集落内のつきあい、面識・交流を合計したもの

(協力:鹿児島大学医学部保健学科 地域看護・看護情報学講座 児玉慎平先生)

# 垂水市人口推計の中から整理すると・・・

(参考:垂水市地域包括ケアアドバイザー池田忠先生の資料)

- 人口構成比における尚更なる急速な超々高齢化
- 各年齢構成実数が全て減少、特に急激な生産人口の減少
- 2020年前後から65歳以上人口が減少してくる
- 2025年度前後を境に、高齢者数が生産人口数を上回る
- 総人口の減少は女性生産人口数が大きく影響
- 生産人口減少を主にした、超々少子高齢化社会の到来



垂水市はすでに2025年問題を過ぎた社会

## 以下の課題が急速に起こることが予測される

小学校の統廃合と教育構造の変化、限界集落の減少、医療・介護対象者の減少と支援事業者の減少、地域組織の解体、各種制度疲労、各種人材不足、年金経済と税収の急激な減少、高齢者問題の放置、田畑の荒廃、空き家の増加、市外からの人材雇用、高齢者の市外流失、時間・経済の非効率性、死生観・人生観の必要性、高齢者・単身世帯の増加、旧来の家族像の破壊、農業・漁業の産業構造の維持不能、グローバル経済の負の影響、いわゆる都市化、災害対応の不備・・・ 等々

# 地域での取組みの内容



## 1、狙い

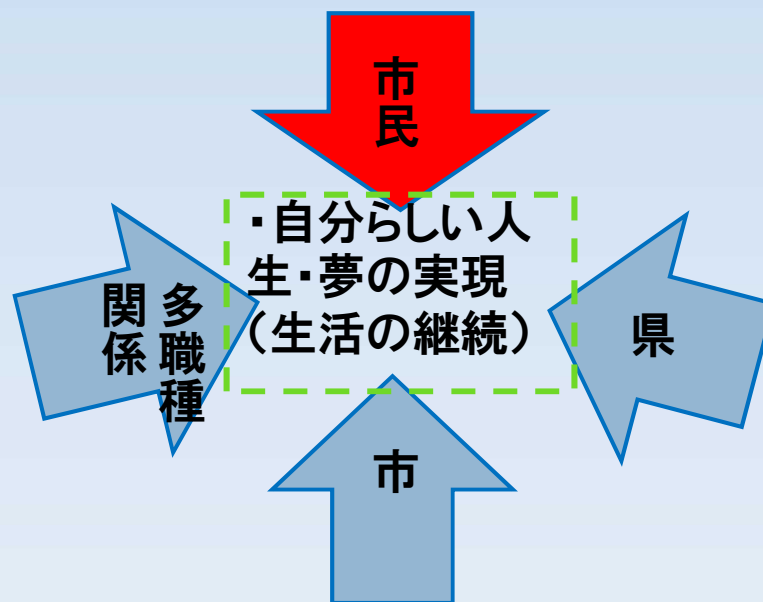
- ◆ 自分のこととして考える
- ◆ 生活の継続
- ◆ 自己決定(尊厳)

## 2、キーワード

- ◆ 家 族
- ◆ 連 携

## 3、戦略の方向性

※同じベクトルを向く





# 医療・看護・介護等の関係者との学習会 (多職種連携をめざす 通称:参木会)



# 自分の人生を自己決定できるために



平成 25 年度 鹿児島県地域支え合い体制づくり事業

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

## あんしんノート

はじめに

人は誰でも年をとると、個人差はありますが、物事の理解や判断力などがおとろえてしまって自分で自分に関することが、思うようにできないということが起こります。

また、災害や災難とはつぜんやってきます。そんな時、まわりの方は、あなたがどのようにしてほしいのかわからず困ってしまいます。

そこで、私たちは自分が元気なうちに、今の自分の気持ちを書きとめ、将来困らないように考えておくことがとても大切です。

書きかた

このノートの項目を全部書く必要はありません。今の自分が書けることだけでも書きとめておきましょう。

一人で書くのも良いですし、家族や知人等いろいろな方と一緒に作成すると意見交換ができ、楽しく、現実的になるかもしれません。

名前

垂水市・垂水市社会福祉協議会

## 住民の“知”

住み慣れた地域で安心して暮らしているために

## 緊急連絡カード

○緊急時や体調が悪い時は、早めに下へ連絡しましょう。

### 本人情報及び緊急連絡先

ふりがな	生年月日	明・大・記 年 月 日		
氏名	血液型	型		
	性別	男 女		
住所	〒 垂水市 (振興会)			
自宅電話	携帯電話			
世帯状況	人世帯(構成: )			
かかりつけ医	病院名			
	主治医名			
	電話番号			
担当地区民生委員	氏名			
	電話番号			
担当ケアマネジャー	氏名			
	電話番号			
利用している福祉サービス				
災害時の避難予定場所				
緊急連絡先 (家族・友人など)	氏名	ご関係	住所	電話番号(携帯)

今までの例から、事前に担当民生委員がこの情報を知っておくと、緊急時の連絡体制がスムーズにいくと思われま。上記情報を担当民生委員にお伝えしておくことをおすすめいたします。

### もくじ

気に入っている写真	2
家族との思い出・印象に残っている出来事など	2
わたしのすきなもの・楽しみにしていること	3
わたしの苦手なもの・苦手なこと	3
普段、わたしを見守ってくれる人・支援してくれる人	3
健康に関して	4
わたしの思い・今後の希望(医療や介護に関すること)	4
「わたし」の未来予想図	6
お葬式について	7
お墓について	7
ご自分の財産について	7
垂水市内病院・診療所・歯科医院一覧表	9
垂水市内調剤薬局・居宅介護支援事業所一覧表	10
非常時持出品リスト	11

地域で支え、  
支え合いをつなぐ場

## 傾聴ボランティア 育成



## 健康教育 (自分の老後はどこで過ごしますか?)



## 認知症対策

(徘徊模擬訓練)

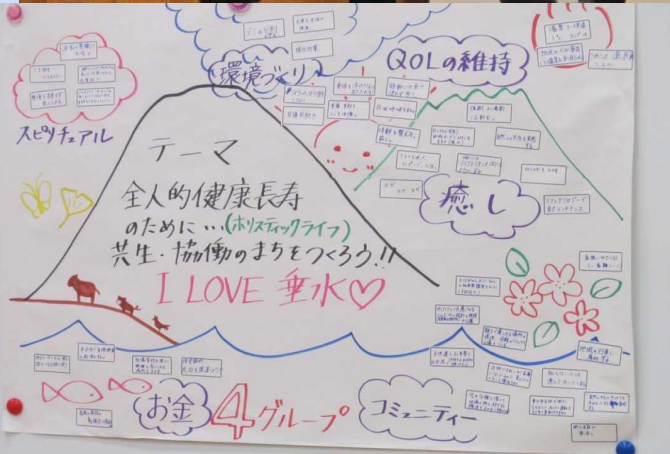


## 介護予防教室 (ロコモ教室etc)



# 将来の共生・協働を目指して

## 鹿児島赤十字血液センターとの 共同事業 ホリスティックアカデミー教室



## 医師会との共同事業

Tarunizu 広域たるみ町 平成26年2月号

### 平成25年度肝臓病医師会地域在宅医療提供体制推進事業 第1回 在宅医療推進講演会

Photo: 写真提供 矢野のり子・メル・アンド・コ・より提供 (撮影: 藤田真由)

講演者 国森 康弘氏  
「いのちづくみ」のいのちのボタンをしっかりと、あなたも在宅医療のまちづくりに参加しよう!!

だれもが「みとりびと」いのちのボタンは受けつがれていく。

日本人の約8割が人生の終焉を自宅で迎えたいと思いつつ、実際には9割弱が自宅外で亡れるのが現実。しかしその一方で、家族やご近所、往診医や訪問看護・介護などの支えもあってみ通り最期まで自宅で過ごす人々もいます。そんな「幸（高）齢者」は、日々受け継ぎ蓄えてきた生命力と心（人懐き）、愛情を着ける者に手渡して頂きます。「あなたがいなくなるを写真スライドとエピソードを通じて紹介し、命のボタンリリースとその実現性について考えます」

講師 国森 康弘氏  
くもり やすむろ / 写真家・ジャーナリスト  
Profile 1974年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士。写真家として活動中。

日時 平成26年3月1日  
受付/12:30～ 開演/13:15～15:45

NEWS 支え合う地域をこめよう!

支え合う地域をこめよう! 地域・医療・行政の連携による「みんまで支え合うまちづくり」

NEWS 支え合う地域をこめよう! 地域・医療・行政の連携による「みんまで支え合うまちづくり」

7月6日(土) 垂水市定例会を開催

【開催の趣旨】  
本県において、平成は在宅医療の普及に伴って在宅医療の重要性が高まっている。地域医療の発展と高齢者の生活の質の向上を図るため、地域医療と行政の連携を促進し、在宅医療の普及を図る。また、在宅医療の普及を図るため、在宅医療の普及を図る。

【開催の趣旨】  
本県において、平成は在宅医療の普及に伴って在宅医療の重要性が高まっている。地域医療の発展と高齢者の生活の質の向上を図るため、地域医療と行政の連携を促進し、在宅医療の普及を図る。また、在宅医療の普及を図るため、在宅医療の普及を図る。

【開催の趣旨】  
本県において、平成は在宅医療の普及に伴って在宅医療の重要性が高まっている。地域医療の発展と高齢者の生活の質の向上を図るため、地域医療と行政の連携を促進し、在宅医療の普及を図る。また、在宅医療の普及を図るため、在宅医療の普及を図る。

## 鹿屋体育大学との共同事業 「貯筋運動教室」

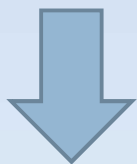


# 組織再編



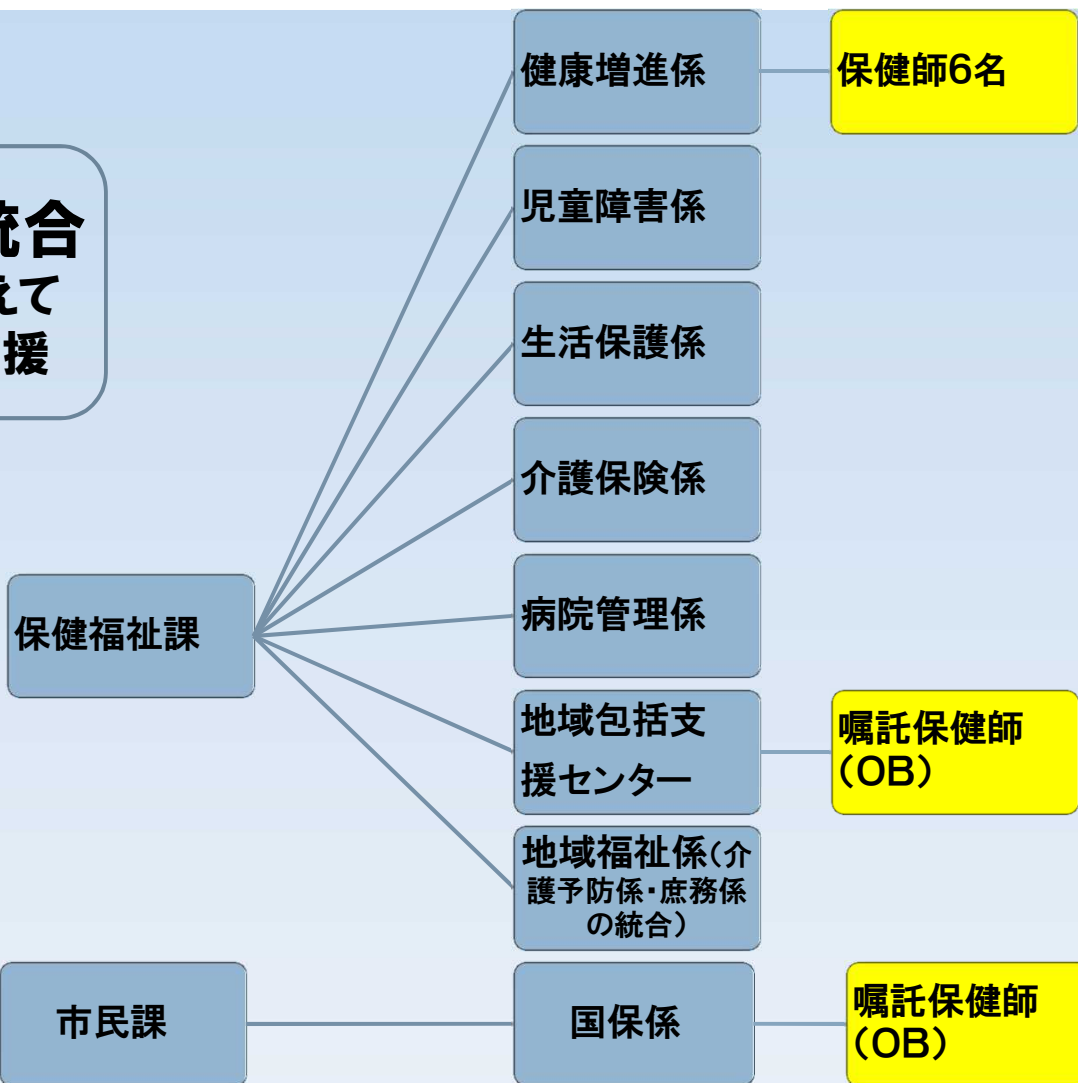
## 保健師の分散配置を統合

- ・新人期保健師4名を抱えて
- ・退職OB(2名)からの支援



全体像の見える保健師の育成を目指す

★ 平成25年度再編



## 垂水市地域包括ケア体制整備のための会議の構成



### ■新設

会議の名称	会議の種類	会議の目的	会議のメンバー
垂水市健やかなまちづくり協議会	市要綱に設置根拠を置く私的諮問機関 必要に応じて条例制定を経て附属機関とする	1 本市の地域包括ケアシステム構築のためのマスタープランをとりまとめるとともに、具体策について協議する。	垂水市健やかなまちづくり協議会設置要綱 別表のとおり
		【第1専門部会】 地域包括ケアセンター設立のためのソフト・ハード両面についての意見をまとめ、市に報告する。	医療・介護・福祉に関する各団体の業務担当者 10人程で構成
		【第2専門部会】 本市の医療・介護等に関する課題と今後の方針についての意見をまとめ、市に報告する。	医療・介護・福祉に関する各団体の業務担当者 10人程で構成

### ■既設

会議の名称	会議の種類	会議の目的	会議のメンバー
地域包括ケア体制整備庁内検討委員会	市要綱に設置根拠を置く私的諮問機関	次に掲げる事項を調査検討する。 ①医療、保健、介護及び福祉に関する公費負担の適正化を見据えた総合的な施策 ②その他地域包括ケア体制の整備に関すること。	副市長 総務課長 企画課長 財政課長 市民課長 保健福祉課長 水産商工観光課長 土木課長 社会教育課長
垂水中央病院管理者等調整会議	市訓令に設置根拠を置く私的諮問機関	情報交換や業務の調整を行い、垂水中央病院を円滑に運営するため	垂水市(市長、副市長、総務課長、財政課長、市民課長、保健福祉課長) 肝属郡医師会(会長、副会長、理事3名、垂水中央病院長)
参木会(地域包括ケア体制整備検討会)	市の呼びかけによる自由参加の会	①地域での生活を困難にしている課題を協議・整理し、今後の市の施策づくりの参考とする。 ②定例的な参加により、地域包括ケア体制整備に向けて自身の機関で何ができるかの意識づけを促すとともに、関係機関相互の連携を促す。	垂水市、垂水市地域包括支援センター、市内医療・介護関係全事業所職員、大隅地域連携関係職員

# 健やかなまちづくり協議会発足！！

垂水市全体の医療  
の方向性、あり方  
や介護、福祉につ  
いて協議



※県や保健  
所の支援が大、  
特に医師会に  
対しての調整  
を期待



# 垂水市における地域包括ケア システム構築の視点は？

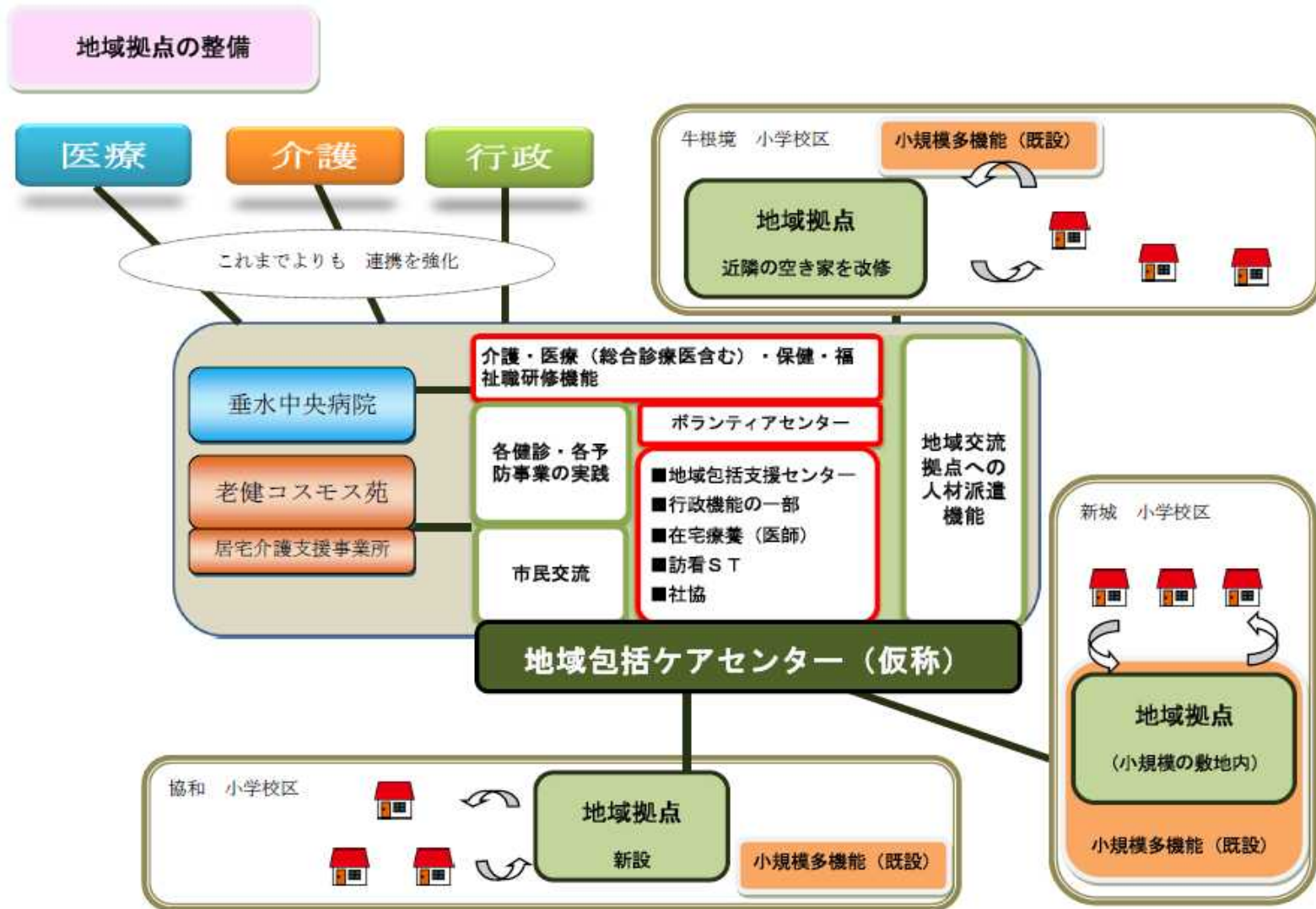


**地域づくり！！**





# 垂水市における地域包括ケアシステムの目指すべき姿 (イメージ)



各分野での活躍の専門家へinterview

地域包括ケア体制  
垂水スタイル

新選政に携わる行政、専門に精通で最善と向き合う医師、多角的な視点から、新しいスタイルの地域包括ケア体制が生まれます。



垂水市地域包括ケアアドバイザー  
池田 忠 さん  
昭和51年福岡県佐賀県、長野県で地域医療に従事。平成14年帰郷。現在は垂水中央病院在宅診療科に所属し、在宅医療や地域包括ケア体制の構築に専念。

地域を回って気づくこと

人は必ずいつか、そして死を遂げる。しかしそれを超えることができ、あえて選んでいる方が多いように思います。自分の経験や考えもこれによって、それまでの生き方をより充実したものにしていく必要があるのではないのでしょうか。また、地域に医療に携わっている方が多いと思いますが、最も重要なことは、個性的な気風は、むしろ上手に活かしていくことが重要なのだと思います。市内の各地域で話をしていますが、地域の良い個性が活かされています。自分や家族の生き方についても、現実的に考えざるを得ないですね。

健康観を持ち、自分の身の生き方を考える

介護施設の職員が言うには、「まだまだある程度は来ていたけど、さすがに、市役所からは来ていませんでした。これからは、地域包括ケア体制の構築のために、地域の方々の連携が必要となります。少なくとも医療・保健・介護・福祉の連携が必要となり、また、少くとも地域に連携するときに専門の知識が必要になると思います。先、私が訪ねたまでの経験から、それらが連

キーワードは『連携』。そのために意識を共有しよう。



平成24年7月19日(水)、市民館で開かれた「地域包括ケア体制構築検討会」の様子。関係者も参加が交わられました。

垂水市の取組

「地域包括ケア体制構築検討会」が、市民館で開かれ、関係者も参加が交わられました。この日は、市民館で開かれた「地域包括ケア体制構築検討会」の様子。関係者も参加が交わられました。

地域包括ケア体制整備検討会の実施

平成24年1月から毎月第3木曜日の夕方から後にかけて、医療・介護関係者、行政職員などによる「垂水市地域包括ケア体制構築検討会」を開催しています。毎月50名以上参加し、「地域包括ケア体制構築検討会」を開催しています。

あんしんノートの配布

本市が地域包括ケア体制構築を推進するにあたり、市民が安心して暮らせるよう、地域包括ケア体制構築検討会と連携して、市民に「あんしんノート」を配布しています。このノートは、高齢者の生活や介護の状況が把握でき、緊急時の対応がスムーズに行えるよう、市民が安心して暮らせるよう、地域包括ケア体制構築検討会と連携して、市民に「あんしんノート」を配布しています。

講演会の実施

市の地域包括ケアアドバイザーである中央病院・池田忠氏による講演会を市内各地で開催しています。平成24年度は、市民の元気な暮らしを応援するために、池田氏を講師として、市内各地で開催しています。

久保さんの生活

今年4月の選挙を機に、牛久保氏の生活が変化した。牛久保氏は、現在、介護施設に入居している。牛久保氏は、現在、介護施設に入居している。牛久保氏は、現在、介護施設に入居している。



牛久保家について話し合う、久保さん親子と池田先生。やさしく語りかける池田先生とあたたかく見守るムツ子さんが印象的でした。

Taramiza chuo hospital  
垂水市立医療センター  
垂水中央病院の役割

垂水中央病院 院長 安部 智 さん  
Profile: 昭和55年、医師科卒業。鹿児島大学医学部講師、助産科などを経て、平成14年から現職。



地域密着と救急医療・専門化  
バランスのとれた中核病院へ。

地域包括ケア体制での垂水中央病院の役割。市民のみなさん、地域を安心して暮らせるためには、医療・介護の連携が不可欠です。このことは、垂水中央病院が立派な役割を担っています。市民のみなさん、地域を安心して暮らせるためには、医療・介護の連携が不可欠です。このことは、垂水中央病院が立派な役割を担っています。

地域包括ケア体制構築に必要なもの

地域包括ケア体制を構築するためには、医療・介護の連携が不可欠です。このことは、垂水中央病院が立派な役割を担っています。市民のみなさん、地域を安心して暮らせるためには、医療・介護の連携が不可欠です。このことは、垂水中央病院が立派な役割を担っています。

これから必要となること

市民のみなさんが、一体となり、地域包括ケア体制を構築する必要があります。市民のみなさんが、一体となり、地域包括ケア体制を構築する必要があります。市民のみなさんが、一体となり、地域包括ケア体制を構築する必要があります。

垂水市の未来を、10年後の子どもたちが安心して暮らせる社会を築いていくためには、地域包括ケア体制の構築が不可欠です。市民のみなさん、地域を安心して暮らせるためには、医療・介護の連携が不可欠です。このことは、垂水中央病院が立派な役割を担っています。

© Taramiza City Public Relations

# 地域包括ケアにおける保健師の行動目標は？

(垂水市地域包括ケアアドバイザー池田忠先生の資料から抜粋)

- 保健師として、**直接地域に触れ**、「高齢者のみにとどまらず、地域で生活しているすべての人々が、住み慣れた地域での尊厳あるその人らしい生活を継続させるために、介護サービスをはじめ、地域におけるさまざまなサービスが、そこに生活する住民のニーズの状態や変化に応じて、連続性・一貫性をもって、適切に、継続的かつ包括的に提供しているか」を観察し、さらには、「地域における問題解決」のための「システム」として機能しているかを時系列的に観察・評価する行動をとるべきである。
- その最終の目的は、地域で生活しているすべての人々が、「住み慣れた地域で、安心してその人らしい**生活を継続**できるようにすること、すなわち生活の質・社会環境の質の向上を目指し健康寿命の延長・健康格差の縮小を可能とし、そこでのいきいきとした暮らしづくりができているかを、観察・評価・反省・行動することである。

# まとめにかえて・・・

## 多職種連携

- 顔の見える関係づくり
- 目指す目的、目標の共有
- 共通言語をもつ
- お互いを尊重する